

たかつき環境市民会議

20年のあゆみ



はじめに

この冊子は、たかつき環境市民会議（以下「市民会議」）発足からの20年を振り返り、これまで関わっていただいた多くの方々に感謝するとともに、近年入会した会員や今後入会される会員みなさんに、たかつき環境市民会議を知り、またより深く理解してもらえよう作成しました。

<20年間の社会情勢の変化>

○地球温暖化

20年前も地球温暖化が問題であると言われていましたが、異常気候現象が世界各地で頻繁に起こるようになり、国連のグレートス事務総長は2023年の夏に「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」と述べています。地球温暖化対策は待ったなしの状況であり、私たち一人一人の生活スタイルの変革が求められています。

○自然災害

2018（平成30）年の大阪府北部地震（高槻市南部が震源）による被害が大きく、ブルーシートを掛けた家屋が翌年になっても多く見られました。また同年9月の台風21号では、山間部の人工林600ha以上が壊滅的なダメージを受けました。天然林の被害状況は把握できておらず、緊急性の高い倒木の整理などを終え順次植林に移行している段階で、復旧はまだ数十年先です。

○コロナ禍

大阪府では2020年4月から2022年3月まで緊急事態宣言と蔓延防止等緊急措置が繰り返し発令され、2023年まで3年以上社会活動が制限されました。この間の活動制限で市民会議も大きなダメージを受けました。

○高齢化の進行

2024年3月現在、日本の総人口は約1億23百万人で、65歳以上は3人に1人（内75歳以上は2人に1人）と高齢化が進んでいます。出生率は2023年には1.20人まで落ち込んでいます。本市の人口は2005年と2020年でほぼ同じ約35万2千人ですが、高齢者率（65歳以上）は約20%から約30%に急上昇しています。

○働き方の変化

高齢化の進行に伴って1980年台に定年年齢は55歳から60歳に引き上げられ、2000年台には65歳まで働くのが普通になり、現在は再雇用制度で更に高齢まで働く人が増えているため、ボランティア活動を行う人が減っています。

<これまでの対応と今後の活動>

このような厳しい状況ですが、環境ボランティアの育成を図るため2013年に始まったたかつき市民環境大学の企画・運営に参画し、会員の半数以上が卒業生で占められるようになりました。自然再生活動を行っている津之江公園は市民の憩いの場として親しまれています。今後も大きな視点で環境問題をとらえ、出来ることから楽しく取り組んでいきます。

沿革

一般社団法人 たかつき環境市民会議
～どなたでも参加できます～

平成 14 年(2002 年 7 月)高槻市が広報紙で、市民・事業者が主体的に市民事業者の環境行動計画「たかつきローカルアジェンダ 21」の策定に取り組む組織への参加を呼びかけました。

多くの人が関わり、活動が進む仕組みづくり。

できるところから活動に取り組む場として「たかつき環境市民会議」が設置されました。

第 1 回のたかつき環境市民会議が 10 月 6 日(日)に高槻市民会館で開催され、企画委員を含めて 132 名の会員が参加し環境市民会議が発足しました。

会議では「たかつき環境市民会議」の組織等について、森林、生き物、学習、ごみ、地球環境などのキーワードに基づいて、ワークショップを行ないました。

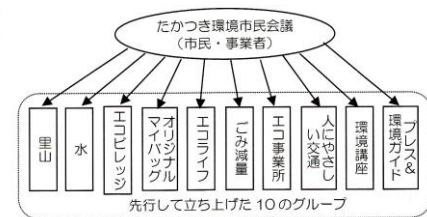
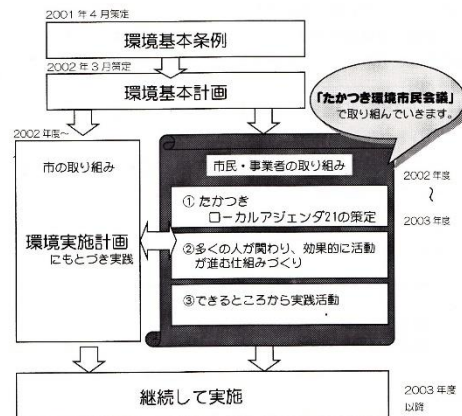
第 2 回の会議では企画会議から里山、水、オリジナルマイバックなど 10 の活動グループを提案し、議論の中から「人にやさしい交通」のグループが新たに提案されました。

当面はプレスと環境ガイドのグループが合同で活動することとなり、合計 10 グループで活動を開始することになりました。

また、平成 16 年度(2004 年度)には、高槻市をはじめとするより多くの団体との積極的な活動を進めるため、社会的・法的責任を持って活動できる組織の在り方の検討を進め、平成 17 年度(2005 年度)に「無限責任中間法人 たかつき環境市民会議」(現在は法改正により一般社団法人となっている)としてのスタートを切りました。

これが、私たちの「たかつき環境市民会議」の始まりです。

活動をすすめていく中で、活動を中心として担っていた方が種々の都合で活動できなくなったり、活動フィールドの利用が出来なくなった、などのため環境講座、エコビレッジ、ごみ減量、オリジナルマイバック、プレス&環境ガイド、がグループとしての活動を終了し、新たに活動グループとして発足したチャレンジンググループを加え、令和 4 年度は 6 つのグループなどで活動しましたが、人にやさしい交通グループは令和 5(2023)年 3 月をもって 20 年間の活動を終了しました。



目次

ページ

メッセージ

過去・現在・未来、元気な市民活動ーたかつき環境市民会議の皆様へー		
兵庫県立人と自然の博物館名誉館長、兵庫県立大学名誉教授	中瀬 勲	1
20年の活動に感謝	大阪植物観察会 栗本 修滋	2
祝辞に代えて	石井 直樹	3
たかつき環境市民会議 20周年史発刊にあたり	白岩 登志男	4
たかつき市民環境大学の沿革	宮島 彰	5
津之江公園を活かす会の活動について	月森 義文	6

グループ活動

水環境保全グループ		7
里山グループ		11
省エネ推進グループ		15
エコ事業所グループ		19
チャレンジンググループ		21
人にやさしい交通グループ		24

過去・現在・未来、元気な市民活動ーたかつき環境市民会議の皆様へー

兵庫県立 人と自然の博物館 名誉館長、兵庫県立大学 名誉教授 中瀬 勲

たかつき環境市民会議が発足する背景に、①「1960・70 台の市民運動で、Think Globally、Act Locally『地球規模で考え、足元から行動しよう』という標語が共有されていたこと。」②「1992 年、リオ・デ・ジャネイロでの国連環境開発会議（リオ・サミット）で、『気候変動枠組条約』『生物多様性条約』等が採択されたこと。」③「国内では、1995 年、未曾有の被害を起こした阪神・淡路大震災が発生したこと。」等の大きな潮流があったと思います。

阪神・淡路大震災後、日本各地のまちづくり・地域づくりで、市民、団体、NPO、NGO、企業、行政等の「参画」「協働」が議論されました。当時、私も被災地の復旧・復興まちづくりに参画していました。

（過去）そのような中、色々ありましたが、2002 年 7 月、市民の皆様が主体的に環境行動計画の策定に取り組む組織への参加を高槻市が呼びかけました。「意思のある市役所の行政マン」、「支援する自然環境の市民活動家の皆様」、既に高槻には多くの有能な方々がおられたのです。また、高槻市には、自然や環境の学びと活動の拠点として、高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）が存在し、そこには有能な学芸員達が存在していたことも重要でした。

（現在）たかつき環境市民会議の皆様方の活動は、多岐にわたり、多くの成果と共に、持続的に継続されておられます。皆様のご活躍は、この報告書で記述されている所です。加えて、2013 年に「たかつき市民環境大学」を設立されたことは重要と思います。そこでは、市民活動を継続し、更に活性化して頂ける人々が自主的に学ばれているのです。2024 年度、最初の講座をさせて頂きましたが、元気でエネルギッシュな受講生が多くおられました。

（未来）講座の中で、「地域理解」「生物多様性」「OECM」（自然保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）について話しました。高槻には、自然が豊かで、人口が減少しつつある中山間地域があります。シカ、イノシシ等による農林業被害、下層植生や草地等の食害、これらは甚大になっています。地域に精通されている「地元の皆さん」と地域の自然環境・生物多様性を理解されている「たかつき環境市民会議の皆さん」と共に、OECM のように地域全体を健全に保全・維持することを考えられたらなと夢見ています。

20年間の活動に感謝

大阪植物観察会 栗本修滋

たかつき環境市民会議の20周年、おめでとうございます。1995年の阪神淡路大震災ではボランティアの方々が多様な活動をしました。その熱を受けて1998年にNPO法が成立し、2001年から制度をスタートさせました。20年前は日本でボランティア活動が制度的に認知されたころだったと思います。

今、事務局で活動されている森畑さんが高槻市の環境部局にお勤めのころ、市民の環境目標であるローカルアジェンダは市民が自発的に作るほうがよいと、森畑さんを始め担当部局の方々は考えられていたと、伺っています。市の広報誌にエコスタッフの募集があったと思います。それに応募した市民が環境市民会議を組織し、ローカルアジェンダを作成し、自ら作成したアジェンダを実施するため、グループに分かれて行動を開始したと記憶しています。

あれから20年が経ちました。環境市民会議の一人お一人が環境行動を定着させた功績はとても大きいと思います。本当にありがとうございます。私は今や会費を払うだけの会員ですが、自分が所属している大阪植物観察会も20年と少し経過しました。植物観察会の会議の時は、環境市民会議の事務室がある分室を使わせていただいています。会議室を使うたびに、環境会議の方々と同じ仲間だとの思いを強くします。

今年の4月に、森林組合は檜田の森林観光センターで、「市民共創の森」植樹祭を実施しました。台風被害林の復旧植樹に里山グループの方々や森のプラットフォーム高槻の方々が多数参加してくださいました。主催者の一人として感謝申し上げます。里山でボランティア活動をされている方々が連携して植樹に参加していただいたことは、20年間の環境市民会議の活動の賜物と、とても感激しました。

これからのますますご活動を祈念しお祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞に代えて

(第2期第5期の代表と環境講座グループの思い出)

石井直樹

少年期は安満山と檜尾川が遊び場所であり栗、山桃、まつたけ、薪などを採集して過ごしました。社会人になり故郷を離れ20数年の海外駐在生活を経て帰郷しました。この間、40年、故郷の環境も大きく変化していました。「広報たかつき」で“市民とともに高槻の環境を考えよう”との言葉に誘発され参加し、環境講座グループ担当を命じられました。

発足当時20数名のメンバーが「何からしようか」と討議し、「できることから始めよう」と決めました。

多士済々のメンバーの知見と経験で得意の分野での講演会開催と現地調査、見学会や勉強会も推進しました。講演会の内容の一部

- ・環境カウンセラーによる社会を取りまく環境課題
- ・生物学博士による環境問題全般とごみの資源化、減量化
- ・料理研究者による食生活とエコ料理
- ・海外の水道事情、水道プラントと節水方法

これらの対象は小中学生、自治会、公民館などで他にも「水グループ」との共同で講座を開催しました。

然し、今から思うと反省点も多々あります。

- 1, 受講者、例えば市民の立場から聞く講演だったのか。
- 2, 面白おかしく聞いていただく工夫をしたのか。
3. 「環境大学」の設立にグループはなぜ参加されなかったのか。

一方、環境審議委員として「高槻環境基本計画」の作成や「一般社団法人化」の創設に関わり人脈も広がりました。然し、環境講座グループの方々との時間を忘れての会議、活動はよき思い出で一生忘れることはありません。

最後に、環境問題に終わりはありません。これまでは種を蒔き苗木を育てる期間でした。次の20年は花を咲かせ果実の収穫を始める時期です。さらに新しい木を育てなければなりません。たかつき環境市民会議が良い変革を遂げて一層発展、活躍することを祈念します。

たかつき環境市民会議 20 年史発刊にあたり

白岩 登志男

市民会議発足時、私に監査役のお話がありましたが、現役時代業務で色々な会社の貸借対照表などをチェックした経験から、始めから基礎的な経理を確立すべき、と事務局を志望しました。その後私がたかつき環境市民会議（以下市民会議と略す）の代表を務めたのは平成 25 年 6 月から同 29 年 5 月までの 4 年間です。

私が代表になって経理を川島さんをお願いしたらパソコンで現金出納を処理され、収支報告書、貸借対照表を素早く完成されたのには驚きました。

三ツ井さんは〈エコ&エコー〉の編集に尽力され、定期的に発行できたのは三ツ井さんのお蔭です。

中島さんは、川島さん、小柿さん、四宮さんとともにたかつき市民環境大学と大学卒業生の活動の場としての津之江公園再生事業を発足させてくれました。私たちはこの大きな活動の場を今後も有効に使って環境活動を広げていきたいですね。

前出の人たちに支えられ又助言をいただきながら大きな問題なく市民会議を運営できましたが、講座グループとエコビレッジグループが退会されたのは残念なことでした。規約で「興味ある環境テーマで 3 人以上集まれば運営会の承認によりグループを立ち上げ出来る」とありますが、問題は環境問題という地味なテーマに関心を持つ人は少ないことです。たかつき市民環境大学以外でも会員増の手段を探すことが必要と思います。

私が在任中高槻市環境政策室の両藤井さん、安藤さんには大変お世話になりました。

市民会議は、今後も市との協働と“広い視野で地域の具体的な環境問題解決に取り組む”ことが必要と思います。

たかつき市民環境大学の沿革

宮島 彰

平成 25 年初夏「たかつき市民環境大学」へ第 1 期生として入学した私が、諸先輩に設立事情をお聞きした事柄を下記に記述する。

平成 23 年春「たかつき環境市民会議」役員会に於いて、会員確保や環境市民会議の活動活性化策の一つとして、中島委員・四宮委員で素案作りを始めることが決まる。

平成 23 年 9 月 「たかつき環境市民会議」役員会へ素案（大学を設立）が提出された。

平成 23 年 10 月～平成 24 年 1 月 大学設立検討委員会（11 名構成）が開催される。

平成 23 年 12 月 「たかつき環境市民会議役員会」へ 中間報告がなされる。

中間報告；

シニア自然大学校等の類似講座と差別化を図り、高槻市の環境に特化した講座で仕切る。

名称； 「たかつき市民自然・環境大学」

期間； 6 月～翌年 3 月

対象； シニア・主婦層

講師； 高槻の環境をよく知る大学の教授や研究者及び地域で継続して活動する NPO などの市民団体を中心に構成する。

カリキュラム；自然環境・都市環境・地球環境を中心に入学・卒業式を含めて年間 24 日で設定。

大学の特徴；① 自然、環境分野の幅広い知識の習得、仲間づくり。

②自然、環境分野の活動の核となる人の養成。

③たかつきで活動する自然環境分野の団体などの紹介、誘い。

これ等の中間報告を基にして、環境政策課が予算要求を行ったが、予算つかず中断する。

改めて 平成 24 年 10 月から「大学設立検討委員会」から「大学実行委員会」へ

名称を改名し、再度 予算要求・実現化へ向けて取り組む。併せて「たかつき環境市民会議・役員会」と協議をしながら、「大学実行委員会」を 12 回開催。紆余曲折を乗り越え、高槻市が主催し、「たかつき環境市民会議」が運営に協力することで、開講の運び

となる。

平成 25 年初夏カリキュラム 21 日・37 講座で晴れて入学式を迎えた。

その後 1 期生 25 名・2 期生 36 名・3 期生 34 名・4 期生 18 名・5 期生 17 名・

6 期生 28 名・7 期生 25 名そして 8 期生の令和 2 年度は COIVD-19 の影響で事業中止となる。9 期生 17 名 合計 200 名が巣立ち、現在 188 名の方々が市内の環境保全団体で活動されている。今 10 期生 12 名が学びに勤しんでいる。

10 年を経て、第 11 期生からも少し時代にマッチングした大学を目指して「大学実行委員会」を毎月開催し、講座内容の検討をしている。

第 11 期生募集は、過去 2 期生を募集した時のように多数の応募を期待したい。

「津之江公園を活かす会」の活動について

津之江公園は平成 20 年、北側に広場を、丘を挟んで南側に芥川と接続する止水域ビオトープが整備されました。その後は高槻市がモニタリングを行いながら順応的管理手法で自然再生を行いました。しかし、外来植物が繁茂したため、自然再生のための積極的な人間の関与が必要な状態となりました。

たかつき環境市民会議は、ビオトープ池のモニタリングや平成 26 年から津之江公園の環境整備に協力しましたが、たかつき市民環境大学卒業生の方たちの活動場所として、力を合わせて自然再生活動を進めることとしました。

たかつき市民環境大学 OB 会

会長 月森善文

「津之江公園を活かす会」は、平成 27 年(2015 年)10 月に、津之江公園自然再生エリアの保全・維持管理を目的として、一般社団法人「たかつき市民環境会議」と「たかつき市民環境大学 OB 会」とで設立した団体です。

平成 28 年 11 月には、高槻市と「津之江公園自然再生エリアに係る管理協定」を締結しました。

津之江公園自然再生エリアが多くの生き物が生息・成育する生物多様性豊かな環境となり、市民が自然と触れ合える公園となることを目標に活動を行っています。

具体的には、下記活動を行っています。

- ・月 2 回 フィールド整備（ヨシ、オギ、ススキ、クズなど在来種の保護育成
セイタカアワダチソウなど外来種の抑制、津之江池の取水口、排水口の整備）
- ・観察会の開催（植物、昆虫、野鳥）
- ・小学生の環境学習（ヨシ刈り体験、ヨシズづくり、クズのつるでリースづくり、昆虫採集など）

グループ活動

水環境保全グループ

2004年3月にローカルアジェンダ21で、将来の水辺の姿を目標に掲げ、それに向かう行動計画（短期3年、中期6年、長期10年）を示した。

将来の姿（目標）

- ・人と自然の共生、水辺の再生
（多様性、特殊性、貴重性）
- ・森とため池と川のネットワーク化
（多様性、連続性）
- ・美しい水と緑豊かなまちづくり
（親水性、景観、水循環）
- ・水をとおして豊かなところを育む（啓発活動）

これまでの活動

1. 河川環境の保全と創造

①芥川の定点における環境・生き物調査

2004年から芥川で定点調査を行い、データを蓄積している。

初期は9地点で年に4回四季に実施していたが河川改修工事が進み、河川環境が単調化していること、洪水時に下流まで砂が運ばれて泥の底の場所がなくなっていること、植生が減少していることなどにより調査に適した場所が減少したこともあり、現在は4地点で年に2回春と秋に実施している。



②外来種（ミズヒマワリ）駆除作業

2006年度から芥川倶楽部と共同し上流側から駆除活動を実施。駆除イベントを開催し、市民、学生、行政と共同で大々的な駆除を行うと共に、水グループ有志による小まめなピンポイントの駆除を重ね城西橋から上流域はほぼ根絶に近い状態まで実績をあげた。

2014年～2023年迄のパトロール&駆除回数121回、参加人数821人、駆除量2,906kg

・芥川大橋下流域の国土交通省との合同パトロールを2019年から継続



③芥川クリーンアップ

芥川でバードウォッチングをしているとゴミが目立っていたので、川の中の清掃を 2013 年から塚脇橋から大蔵司橋の区間で毎月第 3 火曜日に定例実施。2022 年からゴミの多い津之江公園周辺に活動区間を変更して実施している。



③内ヶ池の自然再生

2006 年に内ヶ池の将来像を作成して改修案を行政に提出し、生態系配慮護岸 2 か所が設置された。

整備工事（冬期）の前に生き物救出作戦を行い（2009.11～2012.11）、2000 匹以上の魚、700 個以上の貝を救出して付近の水路に放流した。

2. ため池と水路と川のネットワーク化

①ため池調査ほか

高槻市内ため池の実態調査を実施(2003.6～2010.1)、1995 年度版地図では 120 個所の記載が調査時点では 60 か所に減少していた。代表的な中畑・榎田地区 6 か所、奈佐原・古曾部の山間部・市街地 9 か所、上牧・五領地区 6 か所で、ため池周辺の植物相及び池の生き物調査を実施(2006～2010)

大阪府主催のため池コミュニティ会議に参加し、他地域のため池の見学と交流を行った。熊取町 狭山副池、高槻市 番田水路、泉南 長池オアシス、兵庫県赤穂市の池ほか

②上牧地区のビオトープマップを作製しエコフェスタ 2006 で発表



2011.3～粗朶の沈床実験と人工漁礁の設置実験を行い、生物が棲み着くことを確認した。



またヨシ移植（土の投入整地）に成功し成長調査を実施している。



3. 豊かな水環境を目指して 水循環（雨水利用）

①大阪レインボウプロジェクトモニターに参加
2005.6～2007.4

分室に雨水利用タンクを設置し、散水・清掃などに利用、気温低下効果測定

②北大阪打ち水大作戦参加 2005年～
高槻まつりでの打ち水大作戦に参画 2005年～
毎年の恒例行事となっている

③雨水利用の紙芝居「雨なんかきらいや！」を
作成しエコフェスタ2006で披露

①環境政策課分室で雨水利用 緑のカーテン、
ビオトープ池

②雨水利用紙芝居上演、雨水分流装置模型展示、
高槻市地球温暖化対策実行計画に雨水利用を盛り
込むよう提言

③雨水利用普及実践活動 雨水利用タンク「た
かつき天水くん」を独自開発



2009年～2017年 たかつき天水くん 205台、
加工タンク 172台、タンクのみ 230台を市民の
家庭に設置・提供 諸事情により活動終了



4. 水を通して豊かな心を育む 環境学習・啓発

①各種イベントでの活動報告・啓発

芥川調査結果のパネル展示・水槽での魚展示
2005年～

こいのぼりフェスタ、芥川水辺フェスタ、環境
フェア、エコフェスタ、都市緑化フェア、

②環境学習プログラムを開発し 2005 年～2010 年に 16 小学校（施設）で活用実施



③芥川水辺環境ウォッチングツアーを 2005 年～2010 年に 6 回実施し、成果を利用して小学生向けの生き物マップを作成し配布した。



今後の活動

1. 芥川クリーンアップ活動

毎月第3火曜日（2・8月を除く）従来通り。様々な機会を捉えて「ゴミを捨てない」意識を持つよう啓発活動を行うと共に行政への積極的

な提言を基に廃棄ゴミの削減を図る。

2. 内ヶ池自然再生実験活動

内ヶ池自然再生実験活動は再生地に於けるヨシの移植定着活動は成功した。

今後も定着したヨシの自然環境下での変遷の経過観察をしながら、課題の改善と自然環境の維持に努めて行く。

再生活動のテーマであった①二枚貝の定着、②人口魚礁の設置、等はサンプル実験では効果を検証しているが、現場環境下での活動の難しさが有り、今後の課題の一つとして留めたい。

この活動は地域住民の絶大な協力を頂いており、これまでの活動の報告会を実施したい。

3. 外来種植物駆除

定期的なパトロールと駆除を行ない、芥川大橋から上流域の城西橋までの根絶（津之江公園池、女瀬川を含む）、芥川大橋下流域については、国交省と情報交換をしながら、高槻市と連携して芥川からの根絶を目指す。

4. 生き物調査

引き続き、芥川上流下流域での調査を春と秋に実施する。

5. 小学校支援活動

引き続き、支援活動を実施する。

6. その他

芥川倶楽部、環境大学OB会等との協働の取組は従来通り。

水路の生き物調査実施のための準備作業



A、里山グループの活動

1、沿革・現在までの活動

里山グループ沿革

年度	主な活動内容
2002年(平成14年)	たかつき環境市民会議設立
〃	里山グループなど7グループが参入活動開始
2004年(平成16年)	萩谷で「竹林整備モデルケース」活動を開始
〃	市内街路樹景観向上活動開始、街路樹調査
2005年(平成17年)	会員向けミニ門松教室開始
〃	子ども樹木博士認定活動開始
2006年(平成18年)	萩谷フィールドで竹炭作り開始
2009年(平成21年)	市内公園樹木名札取付開始
2010年(平成22年)	公民館でミニ門松作り講座開始
2012年(平成24年)	たかつき市民環境大学設立準備委員会設立
〃	市民大学実行委員会設立
2013年(平成25年)	たかつき市民環境大学開校、運営委員
2014年(平成26年)	市内小学校校庭樹木調査、樹木学習支援開始
2016年(平成28年)	津之江公園自然再生エリア保全整備活動開始
2019年(令和元年)	街路樹に樹木名札、樹木管理番号札付け開始

2、2004年萩谷フィールドで竹林の整備開始。またこの年、街路樹の景観向上に向けて街路樹の調査を開始しました。市内を歩き街路樹の種類、剪定状況など調査いたしました。

3、2005年には会員向けミニ門松教室開始。また子ども樹木博士の認定活動も開始いたしました。

4、2006年萩谷フィールドで竹炭作り開始。

5、2009年には市内の主要な公園に樹木名札を取り付ける活動も開始。

6、2019年市内街路樹に樹木名札樹木管理番号札の取付を開始しました。

2、萩谷フィールド竹林整備

高槻市の竹林は大阪府で最も広い面積を有します。竹の利用価値が少なくなり、また管理不足により放置竹林が多くなりました。竹の繁殖力は非常に強く広葉樹林を侵食します。

2004年よりそんな竹林を整備する「竹林整備のモデルケース」を作り毎月2回定期的に整備しております。2018年の大阪府北部地震や台風21号により倒竹被害も拡大して増々の整備が必要となりました。萩谷フィールドはA,B,C3か所ありAは真竹、B、Cは孟宗竹林です。Aフィールドは活動の中心で炭焼き小屋など設備して萩谷の活動の中心拠点となっています。



3, 竹炭作り・市民炭焼き体験公民館講座

竹林の整備で出た竹を炭にして販売をしております。唯一の活動資金となります。孟宗竹を約75Cmに切り割って乾燥させ窯に詰めて5時間くらいかけて竹炭をつくります。萩谷の里山と竹林の現状を見て頂く炭焼き体験、竹の伐採体験などして頂く公民館環境講座も開催しております。



4, 市内街路樹景観向上街路樹マップ作製、名札付け

1, 2002年(平成14年)里山グループの活動として街路樹調査・屋上緑化壁面緑化調査等の提案があり街路樹の調査を取り上げることになり市内街路樹の調査を行いました。

2, 2013年(平成25年)道路課、環境政策課と里山グループとで街路樹の景観向上などの協議が行われました。街路樹の樹種、剪定方法の見直しなど意見交換を行いました。

3, 2017年(平成29年)街路樹マップ初版を発行。

4, 2018年(平成30年)市内街路樹に名札、管理番号札をつける提案をして道路課、造園緑化協働組合と協働活動で実施して行くことになりました。2019年(令和元年)第1回富田北駅宮田線の名札付け開始、現在まで順

次各路線に名札付け実施中です。

5, 2021年(令和3年)街路樹マップ改訂版を発行しました。



5, 市内公園樹木調査名札付け

2007年(平成19年)公園課と協議して市内の主要公園に樹木名札を付けることになりました。公園樹木の調査を行い代表的な樹木に名札を付ける為の設計図を作ります。

現在主要50公園に取付済で毎年3~4公園100枚程度の名札を付けております。



6、子ども樹木博士認定

2005年（平成17年）より樹木と楽しく触れ合いながら、樹木の特徴や名前を学び、森林や環境に興味を持ち自然を守ろうとする子ども達になってもらう「子ども樹木博士になろう」を行っています。

子ども樹木博士推進協議会のマニュアルに基づき樹木調査、樹木地図、説明資料を作ります。それに基づき公園内の樹木を観察しテストを行い子ども樹木博士の認定証を授与致します。現在までに400名以上の子ども樹木博士が誕生致しました。



8、ミニ門松作り公民館講座

2005年（平成17年）より竹の利用価値拡大のため会員向けのミニ門松作りが開催されました。2010年（平成22年）から一般市民向けミニ門松教室が開催され多くの市民から講座の申込があります。

7、小学校・保育園自然観察会支援

2013年（平成25年）市内小学校より校庭の樹木の勉強会を実施してほしいとの依頼を受けました。

校庭の樹木を全て調査し樹木図面、説明資料を作成、学習会を実施します。

その後他の小学校、保育園、公民館などからも依頼がきて樹木の出前講座の支援を実施しております。



9, 木の実工作講座

2016年より公民館や小学校、エコ&クリーンフェスタなどで松ぼっくりやドングリを使った環境木の实工作を子どもさん向けに行っております。



10, 公園樹木市民観察会

市民、各公民館から公園の樹木観察会を開催してほしいとの要望が多く寄せられ市内の公園などの樹木観察会を行っております。毎回申込者も多く抽選となっております。今後も継続して行きたいと思います。



■ 11, 市民環境大学講座講師担当

2013年(平成25年)たかつき市民環境大学が発足し講座の講師を担当して今年度で10期となり現在に至っております。

受け持ち講座は「高槻の都市公園・街路樹を巡ってみよう」です。

阿武山公民館をスタートして公団阿武山の街路樹観察、上の池公園の樹木観察を行っております。

12, 今後の活動に向けて

2002年(平成14年)たかつき環境市民会議が発足して20周年を迎え多くの皆様と活動ができたことに関係の皆様へ深く感謝申し上げます。発足当時は会員も少なく、またグループとしてどんな活動を進めて行くか模索し走りながら活動してゆく日々が続いておりました。

2013年(平成25年)たかつき市民環境大学開校以来会員も増えて活動の形態も定着して多くの成果を上げられてきたと思います。しかし会員の高齢化で退会する人も増え40名余りいた会員も31名に減少しております。

SDGs 持続可能な活動に向けていかに進めて行くか課題は尽きませんが多くの皆様と協力し今後も活動して行きます。



省エネ推進グループの活動

□2002（平成14）年～07（平成19）年
環境家計簿グループとして活動開始し、「環境家計簿」の活用普及活動を行う。

「環境家計簿」とは

家庭の日常生活で使用する「電気、ガス、水道、灯油、ガソリン等の使用量」を「CO2 排出量」に換算して家計簿として記録することで、日常生活と環境の関りを身近に感じて「地球温暖化」を防止するための「CO2 削減」を目指すツールです。

活動内容

- ① 市内の公民館で「環境家計簿講座」開催
講座2時間/回、年間数回程度

□2008（平成20）年

温暖化防止グループ改名

地球温暖化防止活動の勸奨活動

キャッチフレーズ＝「ストップ地球温暖化」

—暮らしやすい地球を子供たちへ—

- ① 「緑のカーテン作戦」（ゴーヤ苗 973 株安価提供）夏季、窓辺のゴーヤ栽培で直射日光を遮り、省エネを促すと共に家庭菜園の一挙両得を図る。
- ② 「こいのぼりフェスタ」参加により、ゴミブースの運用及びゴミ分別のPRを行う。
- ② 「水鉄砲で遊ぼう」開催
- ③ 環境講座開催：「環境家計簿のよりよい推進」、「これからの商売」、「一村一品運動」
- ④ 高槻市社会福祉協議会及びボランティア連絡協議会とフリーマーケットの運営協力

□2009（平成21）年

- ① 「キャンドルナイト in たかつき」の開催
—電気を消してスローな夜を—

・キャンドルナイト ・コンサート

・バケツ稲 6月1日～7月7日

（田植え～稲刈り～年末餅つき）

- ② 環境講座開催 環境家計簿普及とゴーヤ栽培推奨、市内5公民館で計97名受講
- ③ 緑のカーテン作戦 ゴーヤ1124株提供
- ④ 高槻市「ストップ温暖化事業」に参画し「竹がつなぐ地域のわ」開催
- ⑤ 「こいのぼりフェスタ」参加
・ゴミの分別管理 ・子供と水鉄砲で遊ぼう
・エコキュービックづくり方紹介
・竹細工、ゴーヤ、朝顔の株提供
- ⑥ 「高槻市市民協働のまちづくり事業」参画
・水鉄砲、竹馬で遊ぼう 公民館で出前講座開催 合計211名の子供、大人が参加
- ⑦ 「たかつき祭り」 打ち水大作戦参加
- ⑧ 高槻市社会福祉協議会&ボランティア協議会活動参画
・「劇団ふるさとキャラバン公演 ・エコミュージカル」の共催 ・高槻ボラ連フリーマーケット共催 地産地消の普及
・高視協サウンドテーブルテニス参加
・市民活動フェスティへの参加

□2010（平成22）年

「市民協働のまちづくり事業」の一環として前年度継続活動として公民館にて各種開催する。

- ① 緑のカーテン作戦（ゴーヤ苗提供770株）
- ② 水鉄砲で遊ぼう、竹馬で遊ぼう
- ③ バケツ稲、餅つき大会
- ④ 高槻市ボランティア協議会活動 参画
・高槻市福祉展 ・高槻ハートフル大学
・障がい者ふれあいプール
・夏休み子供映画会

□2011（平成23）年

エコライフグループ改名

大量生産・大量消費からの脱却、スローライフをキャッチフレーズとして活動する。

- ① 緑のカーテン作戦（ゴーヤ苗提供900株）
- ② 「こいのぼりフェスタ」参加ゴミ分別PR
- ③ 水鉄砲作りと遊び、竹馬つくりと遊び
- ④ 竹の楽器作り 竹笛作りと演奏
- ⑤ 「たかつき大家族プロジェクト」 参画
 - ・竹の裁断機デモの実施 ・チクフン作り
 - ・竹の伐採 ・竹馬つくり ・タコ作り

- ・環境美化推進デー ・たかつき祭り打水
- ・摂津峡クリーンハイキング
- ・市民環境講座 ・エコフェスタ
- ・芥川クリーンハイキング

- ④ 高槻市社会福祉協議会活動 参加
 - ・南芥川地区の床上浸水家屋復旧作業
 - ・市民ふれあい運動会運営
 - ・ふれあい広場（フリーマーケット）運営
 - ・動物愛護フェスタ2012 運営
 - ・福祉展（展示場、スタンプラリー）運営
 - ・災害VC シュミレーション 研修会参加
 - ・学生ボランティア 交流会参加

□2012（平成24）年

省エネ推進グループ発足

8月1日付で、エコライフグループ会員10名が新たに「省エネのための意識行動を推進する」ことを目標に新グループを結成し活動する。



発足会員11名

目 的

- ① 市民、事業者へ省エネルギー推進呼びかけ
- ② 省エネルギーに関する知識普及及び啓発
- ③ たかつき市民会議のほか、高槻市ボランティア連絡協議会、その他関係団体との連携に関する事業

活動内容

- ① こいのぼりフェスタ
- ② 竹馬で遊ぼう
- ③ 市民会議主催行事継続参加

□2013（平成25）年 会員10名

- ① 緑のカーテン作戦（ゴーヤ苗347株提供）
- ② こいのぼりフェスタ 1000 ゴミブース運営
本年から省エネ推進Gの単独活動となる。
- ③ 「省エネ環境講座」開催 4回 122名
—電気料金を節約アイデア—



- ④ 市民会議主催行事参加
 - ・環境美化推進デー、高槻祭り打ち水、摂津峡クリーンハイキング、芥川クリーンアップ大作戦
- ⑤ 高槻市ボランティア連絡協議会行事 参画
 - ・高槻市ボランティア連絡協議会研修参加
 - ・高槻市ふれあい運動会 参加
 - ・ふれあい広場（フリーマーケット）運営

- ・ボランティア、市民活動フェス参加
- ・高槻市福祉展（スタンプラリー、街角安全点検、体験ウォークラリー）運営

- ・ゴーヤ苗提供 4月芥川河川敷公園



□2014（平成26）年 会員11名

- ① 緑のカーテン作戦(ゴーヤ苗547株提供)
 - ・ゴーヤ使用料理教室開催、(大阪ガス協力)
 - ② 省エネ講座 開催
 - ・家計にやさしい節約術 23名参加
 - ③ 市民会議主催行事参加
 - ・都市緑化フェア、エコフェスタ、摂津峡クリーンハイク、ジャズフェスティバル
 - ・市長タウンミーティングで省エネ推進の活動紹介（環境講座、ゴーヤ販売等
- 3月31日付けで 高槻市ボランティア連絡協議会を退会する。高槻社会福祉協議会は継続。

- ④ 市民会議主催行事参加
 - ・環境美化推進、たかつき祭り打ち水、芥川クリーンアップ、摂津峡クリーンハイキング、津之江公園を活かす会活動
 - ・都市緑化フェア、エコフェスタ
- ⑤ ジャズフェスティバル 出店参加
 - ・ゴーヤ苗の安価提供、環境問題啓発

□2015（平成27）年 会員14名

- ① 緑のカーテン作戦(ゴーヤ苗835株提供)
 - ・料理教室兼環境講座 開催 30名
- 7月磐手公民館



- 5月高槻城公園



- ② 各種の環境関連啓発教材作成
 - ・省エネライフのための150か条
 - ・生活防衛 100か条 ・環境家計簿
 - ・身近なもので作る手作りおもちゃで遊ぼう
 - ・食生活と省エネ ・打ち水の効果
- ③ こいのぼりフェスタ1000 参加
 - ・ゴミブース運営とゴミ分別、3RのPR

□2016（平成28）年 会員12名

*会員の健康、時間都合により、活動縮小。

- ① こいのぼりフェスタ参加 ゴミブース運営
- ② 市民会議主催行事参加（個人的参加）
- ③ 社会福祉協議会 リーダー研修会参加
- ④ タウン誌・サークルマムに活動紹介される。

□2017（平成29）年 会員10名

- ① 緑のカーテン作戦(ゴーヤ苗695株提供)

- ・料理教室、環境講座44名

7月磐手公民館



- ② こいのぼりフェスタ 1000 ゴミブース運営
- ③ 出前講座

□2018 (平成30)年 会員9名

- ① 緑のカーテン作戦(ゴーヤ苗638株提供)
・料理教室、環境講座開催 40名受講
- ② こいのぼりフェスタ 1000
- ③ フレンズパーク (ゴーヤ栽培所) 見学5名
今城塚古代歴史観 見学8名
こいのぼり4月芥川河川敷公園



□2019 (平成31)年 会員10名

- ① 清水地区夏祭りへ参加
・手作りおもちゃで遊ぼう、省エネPR



- ② 緑のカーテン作戦(ゴーヤ苗477株提供)
- ③ 市民会議主催行事参加
・緑化フェア、クリーン/エコフェスタ
自転車発電、手回し発電装置、手作りおもちゃを通じて環境、省エネ意識の啓蒙

□2020 (令和2)年~21年 会員10名

*コロナ感染拡大により活動制約

- ① 緑のカーテン作戦(ゴーヤ苗293株提供)
- ② 大阪コミュニティー財団助成金により、「自転車発電キット」購入し、自転車発電製作
- ④ 講習会研修
・COP26 報告会 (STOP 気候変動サークル)
・ゴミ分別講習会 (市の出前講座)

・今後の活動に向けて

□2022 (令和4)年 会員10名

活動目的

高槻市民対象に、環境に関する情報提供、環境意識向上の啓蒙活動を行う。

- ・地球温暖化防止関連、省エネ推進など
- ・食品ロス低減、ごみの3R/分別推奨

具体的な活動内容、PR方法 (集客策)

- ・発電自転車や手回し発電 体験
- ・廃品利用手作りおもちゃ 体験
- ・環境関連の紙芝居 ・古本配布

活動の機会、場所

- ・高槻市行事参加と自主出展 (公園)

エコ事業所グループ

20年の歩み

エコ事業所グループは高槻市内の事業者様の環境課題を支援するグループです。これまでは主に地球温暖化対策活動の一環として、CO2削減に取り組んできました。最近ではマイクロプラスチック問題が叫ばれ、プラスチックごみ削減にも取り組んでおります。今後は事業者様のカーボンニュートラルに向けた取り組みを支援するつもりです。

構成員数 6名 齊藤昇、宇田吉明、津田善弘、辻上武彦、小河晴樹、原茂太

CO2削減（省エネ・節電） & プラごみ削減コンペの実施

減コンペの実施

2009年からCO2削減(省エネ・節電)実施し、今年で14回目を実施中です。2020年度からはプラスチックごみ削減コンペも同時に実施しております。

内容：省エネは、電気の使用量(kWh)の売上高等で割る原単位評価、また節電は最大需要電力(kW)の前年度に対する削減率から評価。プラスチックごみ削減は3Rを中心に活動内容を定性的評価。

一例として、今年の活動内容は以下の通りです。
対象期間：2021年7月～2021年9月の3か月間。

審査会：2022年2月10日 エコ事業所グループ、
2022年3月28日 運営会議

応募事業者数：7社

表彰対象事業所一覧

節電・省エネ優秀賞

(株)河原工房 様

日本スリッター工業(株) 様

節電・省エネ優良賞

甲南化工(株) 様

節電優良賞

滋賀銀行阪急高槻支店 様

省エネ優良賞

北おおさか信用金庫芥川支店 様

プラごみ優良賞

(有)今村化学 様

節電・省エネ努力賞

北おおさか信用金庫高槻支店 様

表彰式：2022年5月22日(日) 13時～17時

現代劇場 305号会議室



エコアクション21 高槻市自治体イニシ

アティブ・プログラム (IP) への協力

2018 年度から高槻市 市民生活環境部 資源循環推進課のご協力を得て、市内

事業者様等を対象に、廃プラスチック等のごみ削減・資源化および省エネ活

動を推進するため、環境省が策定した環境経営であるエコアクション21を高槻市の事業者様に認証取得するための説明会、スクールを開催してきました。



2020 年度からは高槻商工会議所様のご後援もいただき、コロナ禍のためオンラインにてエコアクション21説明会、個別に IP を実施させていただきました。2021 年度もコロナ禍のため、高槻市及びエコアクション21 地域事務局大阪のホームページに YouTube でエコアクション21 説明会の動画を掲載させていただきました。視聴回数 141 回ありました。2022 年度は

IP を実施しておりませんが、1 社を個別に支援させていただいております。

高槻市より省エネ診断における外部アド

バイザー派遣について協力

令和3年11月に高槻市市民生活環境部環境政策課より、高槻市施設(障がい者福祉センター、子育て総合支援センター)の省エネ診断について、エコ事業所グループに依頼があり、小河晴樹さんが実施させていただきました。

グループメンバーが環境省より表彰

エコ事業所グループのメンバーの宇田さんが日ごろの環境保全活動が認められ、「低炭素社会貢献賞」に続き「地域環境保全功労者表彰」(大臣表彰)を受賞しました。



事業者向け省エネ、カーボンニュートラル相談窓口の設置

これまでの省エネ活動だけでなく、事業者はカーボンニュートラルに向けた取り組みが投資家からも重要な評価となってきました。これに向けた行政からの補助金の活用についてもご相談させていただきます。

チャレンジンググループ

チャレンジンググループの沿革

前たかつき環境市民大学実行委員長の中島敏明氏の勧めで、同大学卒業1期・2期生で討議し、2016年6月18日大阪薬科大学構内で「チャレンジングGR」を8名で立ち上げた。常に何事もチャレンジ心を忘れずに、勇敢に立ち向かおうと誓いを立てた。

「たかつき環境市民会議」(以下市民会議)で認知してもらえるように2016(平成28)年10月4日第1回三島江歴史ハイキングを開催し、市民会議メンバー合わせて22名参加。この時に会員数10名となる。「ECO&ECHO」29号に掲載され、「市民会議」の一員として活動を開始した。10名で討議した結果、我々は、「市民会議」としてボランティア活動をすると共に、各々の趣味を活かして、身体を動かし、五感を磨いて季節を心身で感じる活動をすることで人生の生きがいを見つめて、動植物と共存・共栄を図りながら社会貢献活動を行う

ことを誓いあった。西国街道を看破したいわ、五感を養うのに季節料理を、もっと親睦を深める行事を等々の意見に基づき6カ年で下記の行事を開催した。



2017年～2021年の行事

西国街道：

- ①天神馬場～芥川宿～今城塚古墳 2017/4/19
 - ②桜井駅跡～神足 2019/5/10
 - ③京・羅城門跡～神足 2019/11/29
 - ④巡礼橋～郡山宿(椿の本陣) 2021/10/08
 - ⑤高槻城大手門跡～梶原一里塚
- これで西国街道「京都羅城門から茨木・郡山宿」まで終え、後2カ年で西宮神社まで達したいと望む。



歴史ハイク

- ①成合春日神社・安満宮山古墳 2017/11/2
- ②飯盛山 2018/2/28
- ③太田茶白山古墳と五社水路 2018/5/26
- ④藤原鎌足の足跡(福井～塚原) 2018/10/31
- ⑤旧古曾部村探索と観梅 2020/3/5
- ⑥ボンボン山・善峯寺 2021/4/9
- ⑦三好山 2021/4/23

摘草料理

- ①摘草料理教室を開催(原) 2018/6/19
- ②野草料理教室予行演習 2019/3/7

③市民と共に野草料理教室 2019/6/21

④市民と摘み草料理教室 2020/3/25



公民館共催

①摂津峡の地形

②真如寺川上流域の自然 2021/05/29 中止

親睦

①そうめん流し 2018/8/29

②新年例会 2019/1/11

③そうめん流し 2019/7/24

④新年例会 2020/1/18

2022 年度（令和 4 年度）活動内容

基本計画

- ・野草に親しみ五感を働かせて食生活に活かす
- ・地元の歴史を知り、防災やこらからの生活に活かす
- ・自然界の物事を見つめ、己の生活にチャレンジしよう

スケジュール（実施済または開催予定）

4月「野草摘み草料理教室」



5月「星のブランコ」ほしだ園地ハイキング

6月「自然観察とホタル鑑賞」



7月「サントリー京都工場見学会」

8月「高槻まつり」打ち水



10月「歴史ハイク旧三島郡三箇牧村を訪ねて」



10月 稲穂塾向け

「真如寺川上流域の自然観察」



11月 中止

12月「紅葉の箕面を訪ねて」

1月「西国街道歴史」ハイキングシリーズ
(門戸厄神駅～西宮神社&灘五郷めぐり)

2月「西国街道歴史」ハイキングシリーズ
(瀬川宿～郡山宿/椿本陣)

3月 未定

チャレンジングGの未来に向けた思い

私たちチャレンジンググループは、趣味を活かして第二の人生を社会貢献活動しながら、有意義に過ごしたいと夢を追いながら活動に勤しんでいます。関西第1位の住みやすい街作り計画に寄与するために、積極的に清掃活動やクリーンアップ作戦に参加することを目指します。又

摘み草料理教室では積極的に市民へ呼びかけ、五感をフル活動させた野草料理を楽しく、教授してゆきますメンバーの思い・誓いを綴ります。

・過去をたどる事より「今、何を楽しくできるのか」を問おう！！ 大淵

・高槻の歴史、環境、等興味を膨らませ挑戦して行きたいです 瀬川

・西国街道、淀の水運、京街道の歴史的遺産の検証 鳥野

・SDGsを意識した目標を設定し、身近なことから自然環境に関わる活動をする S.藤松

・高槻の特産品を使用した料理教室や高山右近の歴史を巡る N.藤松

・高槻をより良い街にするために街の美化活動を行えればと思います。 古谷

・五感を通して高槻の歴史、野山の散策、摘み草料理を味わう！ 個々の自由な発想と感性を大切にしたい！ 小山

・これからも いつも楽しくワクワクと得ること多し チャレンジング 尾崎

・高槻周辺の自然に親しみ、ワクワク楽しみながら知識を広げ交流を深めていきたい 青野

・これからも息の長い GR でありますように。心身ともに健康第一！ 堤

・畿内には数々の史跡や道標があり、これ等を廻り、未来世界を描きたい。 宮島

・歴史散歩に加えて、できればお楽しみ(みんなで何か作業とか)をしたり雑草摘み草など知りたいです。 窪地

・座学や見学をより多く推進を提案する。予定地を列挙する。茨木市千提寺付近の散策等水尾

・歴史散策、摘み草料理、交流会等々頭や身体を動かし健康 GR に！ 小田

以上

人にやさしい交通グループ

沿革

2002年7月発足

*高槻市が市民・事業者にたいして呼びかけ設立された「たかつき環境市民会議」--(現在は一般社団法人)の10グループの一つとして発足。

*目指すところ

「車依存社会」を脱皮して「歩くこと、自転車と公共交通機関」を基軸とした“ゆったりとした時間が流れる快適なまち”づくり

<活動歴>

<2004年5月>

アンケート実施 (駐輪について)

場所:JR 高槻駅南側グリーンプラザ1号館付近

昼前 夕方

5月18日(火) 73名 91名

5月23日(日) 83名 27名

<2005年5月>

アンケート実施 (駐輪について)

場所:エコフェスタ会場---集計49名

内容:①自宅から中心市街地までの距離
②自転車による中心市街地に来る頻度・目的等

<2008年/7月>

フォーラム開催 (市民会議主催)

「みんなで考えよう!たかつきの人と環境にやさしい交通まちづくり」環境先進国ドイツに学ぶ

場所:交流センター

基調講演:長井交通科学研究所所長

<2010年5月>

意見交換会開催 (交通グループ主催)

高槻警察交通課・高槻市交通安全課・商店街理事長

場所:芥川商店街・アクトモーレ

キャンペーン実施 (交通グループ主催)

(JR高槻駅交番は時間があれば応援)

内容:自転車走行規則順守の啓発

1回目 2011年14日~15日

2回目 2012年2月16日~17日

<2013年5月>

市民公開講座の開催 (市民会議主催)

会場:高槻市総合センター3階第2会議室

テーマ:自転車を安全で快適にするため!守ろう!ルール

後援:高槻市

講師:毎日新聞記者 馬場直子氏(“銀輪の死角”の担当)

参加者:42名

<2015年1月>

自転車の安全利用テスト実施

場所:エコフェスタ会場

回答者147名 内正解131名

<2015年5月>

懇談会の開催 (交通グループ主催)

参加:芥川連合自治会・芥川小学校・同PTA・芥川商店街・アクトモーレ

議題:交通グループのキャンペーン実施を踏まえどうすれば当地区を安全・安心なまちにできるか

<2015年10月>

アンケート調査実施（道路標識について）

場所：緑化フェア会場

回答者：106名

<2016年1月>

アンケート調査実施（自転車の安全利用）場所：

エコフェスタ会場

回答者：195名

<2018年3月>

視察報告会の開催（交通グループ主催）

全米住みたいまち NO1 のポートランドを視察してこられた方の報告会を開催した

<2019年10月>

フェスタに出展予定が中止に

高槻市が、10月に開催予定していた”たかつき交通安全フェスタ”が台風接近のため翌年3月に順延となったが3月はコロナ騒ぎで中止となった。下の漫画は自転車のルール順守啓発用に作成したもの今後機会があれば使用したい。

<正>



<誤>



<2021年9月>

エコフェスタに出展



今後の活動予定

* 自転車関係

市の要請があれば毎月15日「自転車安全利用の日」に実施される啓発活動に参加する

<写真は北山手交番付近の活動風景>



*市営バス関係

重点的に取り組みたい。

先ず「柱本・三島江線」の現状を調べ問題点を調査することからスタートする

<その他>

サイクリングを実施

ここ2, 3年数回淀川河川敷サイクリングを実施したがメンバー不足で現在中止

<2021年3月>



<2019年9月>



発行：2024年11月
一般社団法人 たかつき環境市民会議
住所：高槻市出丸町2番30号
高槻市環境政策課分室

ホームページURL：<https://takatsukikankyo.sakura.ne.jp/>